

令和5年度 自己評価(中間評価)

広島城北中・高等学校

| 中間評価 | |
|------|-------------------|
| 評価 | 基準 |
| A | 計画はとてども順調に進んでいる。 |
| B | 計画は概ね順調に進んでいる。 |
| C | 計画はあまり順調に進んでいない。 |
| D | 計画はまったく順調に進んでいない。 |

| 教育目標 | | | | |
|--|--|----|---|-------------------|
| 達成目標 | 本年度行動計画 | 評価 | 理由(9/30 現在実績) | 担当部等 |
| 1 すべての教育活動を通じて、高い志と行動力に裏打ちされた「城北スピリット」を育む。 | | | | |
| 志を持ち高い目標に挑戦する勇気を持った生徒を育てる。 | ホームルームや道徳の時間で、学習目標の設定、進路目標の設定等について意欲を高める取り組みを行うとともにその実現のための行動ができているかどうかをアンケート調査によって評価する。 | B | <ul style="list-style-type: none"> ・中学学力推移調査(1学期)における肯定的評価の割合 学習: 67.5% / 自主活動: 81.0% / 自発的貢献: 61.9% ・高校生へのアンケートは、今後実施していく。 | 総務部 生徒部 学年会 |
| 他者や社会に貢献する勇気を持った生徒を育てる。 | ホームルームや学校行事における、自身の行動を振り返るアンケート調査を行い、集団への自発的貢献度を評価する。 | | | |

【評価結果の分析】

- ・中学校アンケート結果の各項目における肯定的評価(あてはまる・少しあてはまる)の割合は次のとおり。「学習への意欲」に関する項目: 中1(74.3%)、中2(61.9%)、中3(66.3%) / 「部活動など自主的な活動」に関する項目: 中1(87.4%)、中2(79.1%)、中3(76.5%) / 「他者への貢献」に関する項目: 中1(71.8%)、中2(58.7%)、中3(55.3%)
- ・中学校では、学年が進むにつれて、肯定的評価が下がる傾向にある。

【今後の改善方策】

- ・教育活動を通じて、生徒の意欲を高める取組を様々な場面を通して行っていく。

| 教育目標 | | | | |
|--|---|----|--|------|
| 達成目標 | 本年度行動計画 | 評価 | 理由(9/30 現在実績) | 担当部等 |
| 2 世界の動向や日本の現状を多様な視点から捉え、持続可能な社会の実現に向けて意欲的に取り組む生徒を育成する。 | | | | |
| 世界の動きに興味・関心を向けるとともに、積極的に異文化に触れ、コミュニケーションがはかれる生徒を育む。 | <ul style="list-style-type: none"> 国際情報雑誌、ホームページ、デジタルサイネージなどによる本校および外部プログラムの宣伝と活動報告する。 来訪の海外生徒との交流行事(Discoveryの授業、全校歓迎集会、文化祭など)を活発化する。 現在のすべてのプログラムを見直し、本校生徒のニーズの変化を考慮して、プログラムの適切性を検討する。 | B | <ul style="list-style-type: none"> ・海外短期研修応募者数: オーストラリア 17名、韓国4名(中止)、イギリス 17名(仮調査) ・受入れホストファミリー(申出24家庭→14家庭で実施) ・中学IFCキャンプは未実施 ・外部イベント参加数: 10名 ・韓国語講座参加者: 29名 | 国際部 |

【評価結果の分析】

- ・海外短期研修応募者数は、中止・仮調査段階のものも入れて、現時点で計 38 名である。韓国語講座には関心はあるが、韓国短期研修プログラムへの関心は低く、応募者が定員に満たないため、残念ながら中止とした。
- ・Yarra Valley Grammar School との交換留学による受入れでは、24 家庭に受入れを申し出ただき、マッチングにより、14 家庭で実施した。
- ・外部イベントとしては、平和記念公園のピースカルチャーアンバサダーのトレーニングプログラムに、10 名が参加した。
- ・韓国語講座には、当初の目標人数の 1.5 倍の 29 名の参加があった。

【今後の改善方策】

- ・3月のイギリス短期研修が充実したものになるよう、参加者募集、事前学習等の充実を図っていく。
- ・実用英語検定受験の結果が出た段階で、各学年・受験級における合格率・取得率の分析を行っていく。

| 教育目標 | | | | |
|---|--|----|---|-------|
| 達成目標 | 本年度行動計画 | 評価 | 理由(9/30 現在実績) | 担当部等 |
| 3 生徒一人一人の強みを見極め、系統性と計画性を持たせた学習指導・進路指導を展開する。 | | | | |
| 多様な教育活動を通して生徒の自立に向けた取り組みを行う。 | 自治活動としての生徒会活動・クラブ活動を活性化する。生徒が主体となって地域に貢献できるボランティア活動を行う。 | B | <ul style="list-style-type: none"> ・体育祭(6月)をグリーンアリーナで中・高合同で開催した。 ・文化祭(9月)は、丸2日の日程で開催した。広告協賛により、パンフレットを作成した。 ・いずれも多くの保護者の来校をいただいた。 ・今後、生徒アンケートを実施し、次年度に生かしていく。 | 生徒部 |
| 生徒一人一人が主体的に参加する学校行事を行う。 | 帰属意識を高める行事を具体化する。体育祭・文化祭を中高合同で「だれ一人取り残さず」行う。 | | | |
| 社会の一員として利他の心を持った人間性を育成する。 | | | | |
| 系統立てた学びにより、学習意欲等が高まっている。 | 中学、高校の新課程の実施に伴い、6年間を見据えた学習意欲を高める授業計画を作成・実施する。 | B | <ul style="list-style-type: none"> ・生徒による授業評価アンケートを実施した。 ・休日等による授業時数の偏りについては、定期試験毎にチェックし、できる限り均等になるようにしている。 | 教務部 |
| 年間授業時数が確保できている。 | 授業時間確保のため、定期的にチェックし曜日による偏りがないようにする。 | | | |
| 基礎学力の定着・向上を図り、積極的に自己実現を図る生徒を育成する。 | 放課後の学習時間の確保、学習場所の有効活用等に関する具体的な方策を構築する。 | B | <ul style="list-style-type: none"> ・自習教室や図書館利用の生徒は、増加傾向にある。 ・classi による学習時間調査は、平日:概ね達成、休日:1~1.5時間不足 ・「進路だより」を全学年で毎月発行 ・「進路サポート」をLHRにおいて展開 ・駿台全国模試については、特進クラスを中心に積極的参加 ・出張ナマ講義については、計5回実施し、延べ100名参加 ・11月模試に向け、事前指導を行っている。 | 進路指導部 |
| 家庭学習時間の記録を生徒の学習に関する指導助言に活用する。 | | | | |
| 模試目標偏差値を達成する | 中学1年次から大学を意識させる進路指導を行う。 | | | |
| 旧帝大等の難関大 10人、広島大 20人、早慶上理 30人、関関同立 100人以上が合格する。 | 早期の段階から難関大学に憧れを抱くような進路LHRを計画し、成績上位層の人数を増やす取り組みとして、学習時間の確保を図る学習計画の立案・指導、希望補習や模試の事前・事後指導を実施する。 | | | |
| | 個人面談・三者懇談・LHR等を通じて生徒個々の学習意欲を高めるとともに、学力向上にむけた具体的な学習方法について指導助言する。 | | | |

【評価結果の分析】

- ・生徒による授業評価アンケートでは、中学は、2020年→2021年→2022年と徐々に下がっていた評価が、教壇系、実技系とも、2021年レベルまで回復してきた。高校は、高い平均値を落とすことなく、横ばいか微増という結果であった。
- ・同アンケートで、中学では中1が最も高評価であった。中2はやや評価を落としたものの、過年度比較では高い数値となっている。高1は過年度比較でやや低いが、昨年落とした評価を回復した。高2は経年比較で評価を落としてきているが、一昨年の高2よりは高い。高3は、高校の中で最も高い評価となった。
- ・図書館の新自習室の利便性を周知したため、利用生徒数が増加している。
- ・教科担当のきめ細かい指導、補習の実施、課題の充実等により、平日の学習量は安定してきた。
- ・「進路だより」に進路行事のねらいや学習アドバイスを掲載することで、進路意識の向上を図っている。
- ・高校では、各学年で復習中心の指導を充実させた。特進クラスを中心として駿台全国模試への積極的な参加姿勢が見られた。
- ・出張ナマ講義実施後のアンケート調査では、前向きな感想・振り返りが多数見られた。

【今後の改善方策】

- ・各教員が授業改善シートに記した取組を実践することで、引き続き、授業改善に取り組んでいく。
- ・高3の高評価のノウハウを学校全体で共有していく。
- ・学習状況等の全体集約および情報共有には、まだ改善の余地がある。
- ・教科担任と学年会が緊密に連携しながら、生徒の休日の学習時間及び学習方法や内容の充実を図っていく。
- ・「進路だより」等を活用し、生徒・保護者への進路情報の積極的配信を継続していく。
- ・各学年進路部員及び学年会との情報共有等を積極的に行い、難関大志望の生徒に人数を増加させていく。

| 教育目標 | | | | |
|---|---|----|--|-------------------|
| 達成目標 | 本年度行動計画 | 評価 | 理由(9/30 現在実績) | 担当部等 |
| 4 時代の変化に対応した教育内容の開発と校内の指導体制を構築する。 | | | | |
| 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善に取り組む。 | 生徒の学びを深化させるためのICT機器の活用手法について学ぶ研修会を実施する。 | B | <ul style="list-style-type: none"> ・教員のパソコン・iPad の入れ替えを行った。 ・年度初めにロイロノート等、ICT 機器の使用に係る研修会を実施した。 ・7月に全教員対象の生徒による授業評価アンケートを実施した。 ・同アンケートについては、9月に各教員に返却し、授業改善に生かしていった。 ・他校の公開授業や研修会の案内を行った。 | 教務部 |
| | 授業観察、アンケートなど授業改善を組織的・計画的に行う。 | | | |
| | ICT機器によるさまざまなデータの蓄積を促し、学習面・生活面からの生徒支援を推進する。 | | | |
| | 広く校外にも参加を呼びかけ、公開研究授業を行う。 | | | |
| 新学習指導要領に対応した教育課程を実施する。 | 全体の指導を通じて学力の3要素を育成する教育活動を実践する。 | C | <ul style="list-style-type: none"> ・教科主任会議等を活用して、新学習指導要領の円滑実施に向けた取組を進めた。 | |
| | 総合的な探究の時間の学習評価の項目を検討する。 | | | |
| 城北の魅力、機会をとらえて積極的に情報発信する。 日常的な教育活動について、学校の魅力を積極的に校外に発信することにより、志願者数の確保に繋がる情宣活動を推進する。 | ホームページや公式SNSの更新頻度を週5回以上とし、教育活動を校外に発信する制度を構築する。 | C | <ul style="list-style-type: none"> ・オープンスクールのべ参加者数は、昨年度比で中学校はほぼ同数、高校は13%増加 ・ホームページのフェイスブック、インスタグラム、Xを開始するとともに、積極的な更新を行っている。 ・私学フェスタに参加し、来場者に説明を行った。 | 入試広報部 |
| | 定期的に広報誌を発行し、教育活動の広報を校外に積極的に発信する。規模を限定した Saturday Open School を年間7回実施する。 | | | |
| 医進コース・自主的探究活動のカリキュラム開発と広報活動を進める。 | 新コースのカリキュラムを定着させ、その魅力を医進生徒の参加も含めて小学校をはじめ幅広く周知活動を行い、入学者増に繋げる。 | B | <ul style="list-style-type: none"> ・年間3回発行予定の医進広報誌について、Vol.1、2をすでに作成・配付した。Vol.3については現在配付中。 ・医進コース説明会や SNS による発信を行っている。 ・毎週、探究企画会議を開催し、ディスカバリーとともに、次年度3年の総合的な探究の時間の内容について協議している。 | 医進コース運営 探究活動企画 |
| | 総合的な探究の時間のカリキュラム開発を行う。FLIP など自主的な活動が定着するように校内広報を図る。 | | | |

【評価結果の分析】

- ・次年度が総合的な探究の時間の完成年度となるため、校内人配も意識しながら、中1から高3まで6年間の系統的なカリキュラムを作成していく必要がある。
- ・大学入試の総合型選抜を希望する生徒について、校内での意識統一を図るなど、指導体制を整えていく必要がある。
- ・塾・中学校への訪問は精力的に行っているが、併願も含めた学校選びにおいて、未だに積極的に本校を選択する人が増える様子が見られない。
- ・説明会の事後アンケートからの印象では、ALだけに頼ったアピールとなっており、志願者増に向けた効果的な広報とはなっていない。
- ・医進コース広報誌については、予定どおり発行できている。(Vol.1～3)
- ・進学コース、医進コースとも、学力の伸長についてアピールできていないことが課題の1つと思われる。

【今後の改善方策】

- ・進学重視をわかりやすい指標で提示し、広報していくことを検討していく。
- ・特に医進コースにおいては、現時点での実績をわかりやすい指標で提示することを模索していく。

令和5年度 学校関係者評価シート(中間評価)まとめ

令和5年 10月 24日

広島城北中・高等学校

| 評価項目 | 評価 | 理由・意見 |
|--------------------|------------------|--|
| 目標, 指標, 計画等の設定の適切さ | B A B A | <ul style="list-style-type: none"> ●適切である。 ●とてもよく考えられている ●<教育目標2について>応募生徒の数による評価だけでなく、研修の内容の成果についての評価はできないか。 ●資料がわかりやすい。城北スピリットとは何か。 |
| 計画の進捗状況の評価の適切さ | B B B B | <ul style="list-style-type: none"> ●海外研修応募数やホストファミリーの数など、参加人数にとられない評価も大切。 ●年度末の評価に期待している。 ●アンケートが未実施であったり結果がすべて出ていない項目がある。 ●授業改善シートの具体的内容を明らかにしてほしい。 |
| 目標達成に向けた取組の適切さ | B B A B | <ul style="list-style-type: none"> ●生徒1人1人のことを考えた取組ができている。 ●アンケートはより具体的にしてみてもどうか。 ●授業改善に向けてのアンケート、その結果分析による取組は適切。 ●もう少し具体性がほしい。 |
| 評価結果の分析の適切さ | A A A B | <ul style="list-style-type: none"> ●分析がしっかりしており、新しい試みも行われている。 ●よくできている。少し自己評価が低いように思われる。 ●分析は適切に行われている。 ●これからのより具体策に期待している。 |
| 今後の改善方策の適切さ | B B A B | <ul style="list-style-type: none"> ●医進コースの生徒を増やす方策は急務 ●同じ項目を複数の部署が担当するのではなく分けた方がよいのでは。 ●改善方策の方向性は良い。 ●数値で評価できるものとできないものがある。数値で評価できないものうまく活用していくとよい。 |
| 総合評価 | B B A B | <ul style="list-style-type: none"> ●適切である。 ●概ねよく考えられている。 ●今後も引き続き、取組を続けていけば成果が上がってくると思われる。 ●文書はよくできていたが、より見える化ができればより評価がしやすい。 |

A:とても適切である/B:概ね適切である/C:あまり適切でない/D:まったく適切でない/N:判定できない